



長合之法

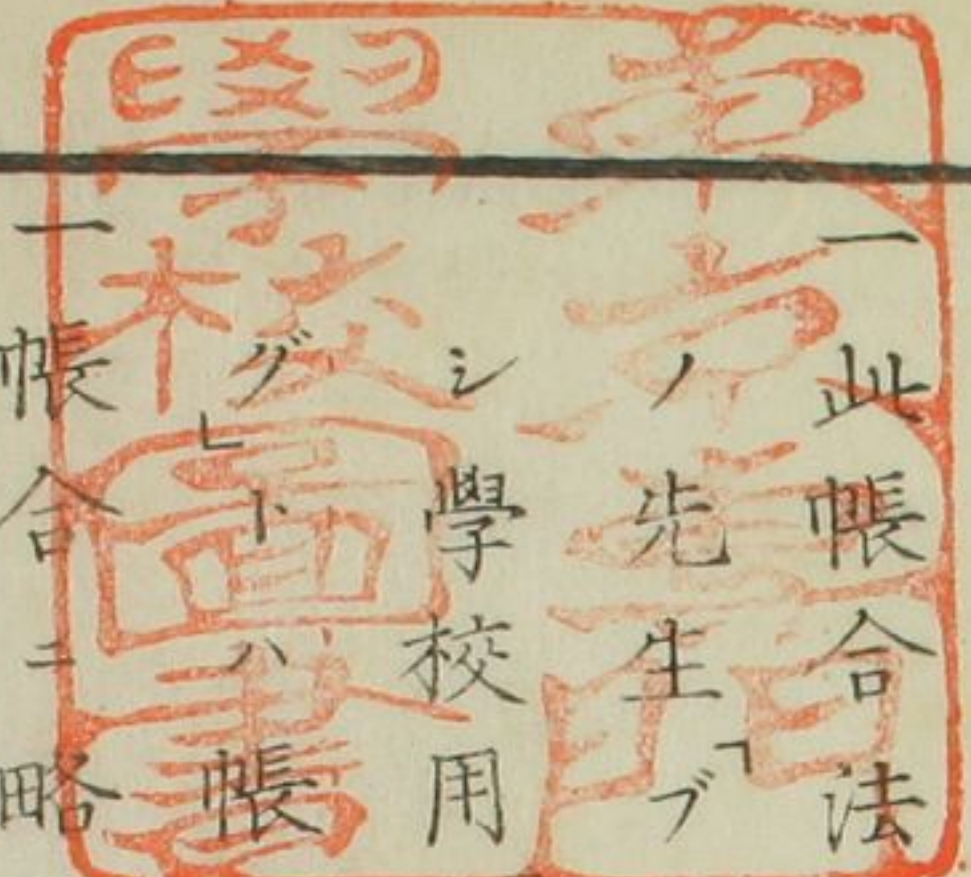
永津0
180
1

特
永10
180



明
180
卷
11

藏書



帳合之法卷之一

凡例

此帳合法ノ原書ハ千八百七十一年アメリカ高賣學校ノ先生ブライヤント並ニスタラットンノ兩人ガ著述セシ學校用ブックキイピングト云フ書ナリブックキイピングトハ帳合ノナリ

帳合ニ略式ト本式ト二様アリ初編二冊ニハ先ツ略式ノミヲ譯シ本式モ其譯半成リタレバ近日コレヲ第二編トシテ出版ス可シ

書中ノ譯例ヲ記ス前ニ序ナガラ余ガ此書ヲ翻譯セシ

明治七年八月二十日
明義塾贈



2 5 3 3
7 8 7 3
明治六年六月

帳合之法

福澤諭吉譯
慶應義塾出版局
初編 二冊

日記帳
手帳
賣帳
大帳
金銀出入帳
仕入帳

華端能ク一世ヲ經緯シ

趣意ヲ示ス左ノ如シ

第一古來日本國中ニ於テ學者ハ必ズ貧乏ナリ金持ハ必ズ無學ナリ故ニ學者ノ議論ハ高クシテ口ニハヨク天下ヲモ治ルト云ヘドモ一身ノ借金ヲバ拂フテ知ラズ金持ノ金ハ澤山ニシテ或ハコレヲ瓶ニ納テ地ニ埋ルテアレ氏天下ノ經濟ヲ學テ高賣ノ法ヲ遠大ニスルテ知ラズ蓋シ其由縁ヲ尋ルニ學者ハ自カラ高ブリテ以為ラク高賣ハ士君子ノ業ニ非ラズト金持ハ自カラ賤シメテ以為ラク高賣ニ學問ハ不用ナリトテ知ル可キヲ知ラズ學ブ可キヲ學バズシテ遂ニ此弊ニ陷

リタルナリ何レモ皆高賣ヲ輕蔑シテコレヲ學問ト思ハザリシ罪ト云フ可シ今此學者ト此金持トナシテ此帳合ノ法ヲ學ハシメナバ始テ西洋實學ノ實タル所以ヲ知り學者モ自カラ自身ノ愚ナルニ驚キ金持モ自カラ自身ノ賤シカラザルヲ悟リ相共ニ實學ニ勉強シテ學者モ金持ト為リ金持モ學者ト為リテ天下ノ經濟更ニ一面目ヲ改メ全國ノカヲ増スニ至ラン乎譯者ノ深ク願フ所ナリ

第二都テ世ノ中ノ事物ニ就キ不便利ヲ見出シテ苦情ヲ述ルハ易ケレ氏其不便利ヲ補フノ術ハ甚タ難シ

諸方大家ノ帳合ヲ見聞スルニ何レモ皆混雜多ク一商家ノ棚卸ニハ店中惣掛リニテ二箇月ヲ費シ尚不分明ナルモノ多シ帳合ノ宜シカラザル證據ナレ氏今日ニ至ルマデコレヲ改正シタル者アルヲ聞カズ一家ノ不便利ノミナラズ天下一般ノ不便利ト云フ可シ今コノ譯書ハ唯西洋帳合ノ初步ナレバ固ヨリコレヲ以テ諸商賣ノ帳合ヲ一變シテ全ク世ノ不便利ヲ除ク可キニハ非ザレ氏先ツ此書ヲ以テ帳合學ノ門ニ入り次テ二編ノ本式ヲ學ヒ尚進テ其奧義ニ達スルヲアラバ遂ニハ全國公私ノ會計ヲ便利ニス可シサレバ此冊子粗ニ

シテ小ナリト虫氏尚ナキニ優レル乎
第三前条ニモ云ヘル如ク古來日本ニテハ學問ト家業ト互ニ縁ナク學者ハ字ヲ知ルホド益高クシテ天ニモ登ラントシ無學ノ百姓町人ハ益輕蔑セラレテ地ニモ入ラントスルノ勢ニテ互ニ迫ヅクヲナシ或ハ好事ノ百姓町人少シク書ヲ讀テ學者ノ真似ヲスル者アレバ無用ノ漢文詩歌ニフケリ物ノ數ヲ知ラズ金錢ノ勘定ヲ忘レ家業ノ便利ニハ為ラズシテ必ズ身代ヲ破ルニ至レリ故ニ百姓町人ハ學者ヲ見テ表向ニコレヲ貴ビ物知り先生ナド、口ニハ云ヘドモ内心ハ既ニ其所業

帳合之法
三
ヲ厭ヒ盡シ學者ヲ視ル一貧乏神ノ如クシテ敢テコレ
ニ近ヅク一ナク其子弟ヲ戒テ讀書ヲ禁スルノ勢ト爲
リ今日ニテモ洋學ノ道漸ク開ケ諸方ニ學校ノ世話ア
レ氏農工商ハ既ニ學者ノ所業ニ懲リ學問ノ名ニ恐怖
シ又例ノ學問ナルカトテ其學ノ虛實ヲ問ハズ其名ヲ
聞テ先ツコレヲ避ケントシ正ニ進歩ノ洋學モコレガ
タメニ妨ゲラル、一多キハ何ソヤ畢竟數百年來和漢
ノ學者先生ガ虛文空論ニ溺レテ實學ヲ求メズ下民ヲ
愚ニシタル罪ト云フ可シ實ニ歎息ス可キ一ナリ右ノ
次第ニ付今此帳合ノ法ヲ諸鬼ノ學校ニ用テ生徒ノ讀

本ト爲シ平民ノ子弟或ハ其學ビシ一ヲ家ニ歸テ父兄
ニ語ル一アラバ父兄モ始テ洋學ノ實ナルヲ知り安心
シテ其子弟ヲ學問ノ道ニ入ル、者次第ニ多カル可シ
然ハ則コノ冊子ハ帳合ノ法ヲ教ルノミナラズ一般ニ
學問ノ著實ナル證據ヲ示シテ周子ク世人ヲ讀書ノ門
ニ導クモノト云フ可シ和漢古今ノ空學者流ガ人ヲ愚
ニセシ罪ハ深ト魚氏此一書ノ願力ニ由テ其罪業ヲ消
滅シ農工商三界ノ萬靈ニ開知ノ功德ヲ施スヲ得ニ乎
斯ノ如クナラバ余ガ翻譯ノ勞ニ報ヲ得ルモ亦大ナリ
ト云フ可キナリ

第四帳合モ一種ノ學問タルハ此譯書ヲ見テ既ニ明白ナリサレバ高賣モ學問ナリ工業モ學問ナリ又一方ヨリ論ズレバ天ノ定則ニ從ヒ心身ヲ勞シテ其報ヲ得ルモノハ高賣ナルユヘ役人ノ政ヲ為シテ月給ヲ得ルモ高賣ナリ古ノ武士ガ軍役ヲ勤テ祿ヲ得ルモ亦高賣ナリ然ルニ世ノ人皆武士役人ノ高賣ヲ貴ク思ヒ物ヲ賣買シ物ヲ製作スル高賣ヲ賤シク思フハ何故ゾ畢竟高賣ヲ貴キ學問ト思ハザリシ心得違ナリ其心得違ノ甚シキニ至テハ一身ノ利害ヲモ忘ル、者多シ試ニ一例ヲ舉テコレヲ説カン右ニ云ヘル如ク物ヲ賣買製造ス

ルモ高賣ナリ武家奉公モ高賣ナリ先ツ十万石ノ大名ノ家ヲ一高社トスレハ一年ノ利潤正米四萬石ナリ一石三兩ノ相場ニスレバ代金十二萬兩此内四分ノ一即チ三萬兩ハ社頭ナル殿様ノ用ニ供シ残テ正味ノ利潤九萬兩トスコノ高賣ヲ為スニ上家老ヨリ下足輕小者ニ至ルマデ九千二百人ノ働ナカル可ラズ九萬兩ヲ平均シテ千二百軒ノ家ニ分テバ一年七十五兩ナリヨキ武家ニハ奉公人ヲ召使フ者モ多キユヘ一家ノ人數上下平均六人トスレバ一人前一年十二兩五貫文一月一兩ト四百十六文一日三百四十七文ナリ廢藩以前諸藩

士ノ利潤ハ大凡コノ割合ナル可シ今コノ武家高賣ヲ止メ古來受負ノ軍役ハ常備ノ兵隊ニ讓渡シテ其身ハ物ヲ製造シ物ヲ賣買シ物ヲ運送スルハ高賣ヲ始メナバ其利潤必ス以前ニ陪ス可シ一身ノ利得ナラズヤ家内六人ノ内三人ヲ老幼病人トシ三人ヲ達者ナル男女トシテ三人各六百九十四文ノ稼ヲナセバ尚依然タル舊藩士ニ異ナラズ高賣ノ道艱難ナリト金氏屈強ナル身体ヲ以テ一日ニ六百九十四文ノ錢ハ得難キニ非ラズ人力車ヲ牽テ十町ノ路ヲ往來スレバ半時ノ間ニ得ベキ錢ナリマシテ近來ハ士族ノ祿モ大ニ減シ平均十

石ヨリ二十石多キモ三十石ニ出デズ此利潤ヲ六人ノ家内ニ配分セバ人力車ノ利ニ及バザル一遠シ加之今ノ士族ニハ既ニ軍役ノ勤モアラズ勞セズシテ報ヲ得ントスルハ男子ノ耻ツ可キ所ナリ然ルヲ尚モコノ米ニ粘着シテ獨立ノ活計ヲ立テントスル者ナキハ果シテ何ノ心ヅヤ人心ノ暗愚斯ノ如クナルトハ實ニ不可思議ナレ其本ヲ尋レバ數千百年先入スル所主ト為リテ事ノ利害得失ヲ顧ミズ妄ニ高賣工業ヲ輕蔑シテコレヲ學問ト思ハザルノ罪ナリ今コノ帳合ノ法ハ此輩ノ人ヲシテ學問ノ道ヨリ進テ高賣工業ノ門ニ入り

獨立ノ大志ヲ起サシメントスルノ趣意ナリ

一書中都テ金ノ高ヲ書クニ何十何百何十ト記サズシテ
一ヨリ九マデノ數字ヲ用ヒ其數字ノ位ヲ見テ金高ヲ
知ル一恰モ算盤ノ桁ヲ見ルガ如シ左ニ其一例ヲ示ス

一二三四五〇〇〇〇ハ 十二萬三千四百五十圓 ナリ

一二三四五〇〇〇ハ 一萬二千三百四十五圓 ナリ

一二三四五〇〇ハ 千二百三十四圓五十錢 ナリ

一二三四五〇ハ 百二十三圓四十五錢 ナリ

一二三四五ハ 十二圓三十四錢五厘 ナリ

右ノ如ク同シ數字ニテモ其位ニ由テ十陪ツ、ノ高下

アルナリ多ク數字ノ重ナルハ三字毎ニ、ノ点ヲ打
テ百ト千ト十萬ト百萬トノ位ヲ分ツ本文ニハ圓ノ位
ト錢ノ位ヲ明ニ分ツタメ横ニ線ヲ引ケリ或ハ品物一
ツノ價何圓何錢替ト云フ畧ニ線ヲ用ヒズシテ譬へバ
田一二七五セ久ト記シタルハ十二圓七十五錢替ノ事
ナリ此數字ノ用法ハ初學ニ不適當ノヤウナレ氏決シ
テ然ラズ譯者モ最初ハ自カラ紛ラハシク思ヒ折節位
ヲ誤ル一モアリシガ五六枚翻譯スル内ニ直ニコレニ
慣レ日本流ニ金ノ高ヲ記スヨリモ遙ニ便利ナルヲ覺
ヘタル一ナレバ誰ニテモ四五日ノ熟練ニテ容易ニ出

来ルヲナル可シ

一此書ハ半紙ノ本ナルユヘ唯諸帳面ノ雛形ヲ示スノミ
 コレヲ實地ニ用ルニハ豎八行乃至十行横四五十段計
 リノ大形ノ系版ヲ彫刻シ美濃紙歛西ノ内位ノ大紙ニ
 朱歛藍ニテ極々薄ク摺立コレヲ帳面ニ綴シ日記帳ニ
 テモ大帳ニテモ實地ニ事ヲ記ス氏ハ此書中ノ雛形ニ
 墨ノ線アル例ニ倣テ薄キ朱ノ系ノ上ニ一々墨ニテ線
 ヲ引ク可シ西洋帳合ノ法ハ皆コノ風ナリ故ニ彼ノ國
 ノ帳場ニハ必ず系引ノ道具ヲ備ヘリ日本ノ店ニテ厚
 サ一尺余モアルマキ大福帳へ子供ノ清書ノ如キ大文

藍

字ニテ帳合スルトハ大ニ趣ヲ異ニセリ

一此書ハ原本ノ直譯ナレ氏彼ノ國人ノ姓名ヲ直ニ譯シ
 テハ日本人ノ耳ニ慣レズシテ混雜ヲ生ズ可キガ故ニ
 假ニ日本普通町人ノ名ト入替へ何屋何屋ト記セリ
 一賣買品ノ名モ日本人ノ見聞ニ稀ナルモノハ他ノ品ト
 入替タルユヘ或ハ直段ニ不相當ナルトモアル可シ又
 尺ト記シタルハ原書ノ「ヤアルド」ノ字ヲ譯シタルナリ
 一「ヤアルド」ハ我邦ノ曲尺三尺ニ當ル故ニ此書中ニ一
 尺トアルハ其實三尺ノ一ナリ
 一原書ニアル「シングル・エントリ」ノ字ヲ此書ニ略式ト譯

シドウナルエンタリヲ本式ト譯シタレ氏此譯字ヨク
 原意ニ叶フモノニ非スシングルエンタリトハ一重ニ
 記スト云フ義ドウブルエンタリトハ二重ニ記スト云
 フ義ナリ追刻第二編ノ惣論ニモ云ヘル如クドウブル
 エンタリハ同シ高ノ借貸ヲ大帳ヘ二重ニモ三重ニモ
 扣テ互ニ平均スル趣向ナルユヘ斯ク名ケタルナリ故
 ニ此兩式ヲ一重扣ノ式ニ重扣ノ式ナド、翻譯セハ原
 書ノ意ニ當ランカナレ氏句調惡シクシテ朝夕ノ唱ニ
 不便ナルヲ恐レ無理ナガラモ略式本式ト譯シタルナ
 リ明治六年二月十日譯者記

帳合之法卷之一

福澤諭吉 譯

第一編略式

惣論

何等ノ學問ニテモ其本趣意ノ價ヲ知ラントスルニハ學
 問ノ由来ヲ尋子其開ケタル順序手續ヲ心得ベキナリ此
 一義帳合ノ學問ニ於テ最モ然リ抑モ帳合ノ學ハ數學ハ
 一箇条ナレバ學者先生モコレヲ輕蔑ス可キ理ナシ然レ
 氏其由来ヲ見ルニ古ヨリ學校ニ於テトカク此學問ヲ重
 ンゼズシテ他ノムツカシキ學問ト同様ニ取扱ヒシナ

キハ心得違ト云フ可シ畢竟其日用ニ欠ク可ラザル事タ
ルヲ知ラズシテ大切ナル學問ノ位ヲ誤認メシヨリシテ
斯ル心得違モ出来シナリ憐ム可シ世上ノ人斯ノ如ク
美ニシテ斯ノ如ク實ナルコノ帳合ノ法ヲバ少シモ知ラ
ズシテ徒ニ古人ノ設ケシ算法ノ難問ヲ解カントシ或ハ
將碁ノサシ手ヲ工夫シテ心ヲ勞シ思ヲ焦シ自カラコレ
ヲ是トシテ人モ亦コレヲ譽メ博學多識ノ名ヲ得テ耻ツ
ル心ナク生涯得意ノ顔色ヲ為シテコノ世ヲ渡リ其實用
ノ働ニ至テハ僅ニ組合高賣ノ一事ヲ判断スルニモ困却
シ定リタル算法ヲ實地ニ施シテ貸借ノ用ヲ辨ズルナモ

能ハザル者多シ
人間ニ斯ル奇事アラントハ實ニ不思議ナルナリ今其
本ヲ尋ルニ帳合ハ事柄ノ學問ニテ高人ノ仕事ニ近シト
云ヒ見世先キノ臭氣アリト云ヒ大樽ノ取扱ハ不風流筵
包ノ運送ハ殺風景ナド、テコレヲ賤シムルヨリシテ大
ナル了簡違モ出来シナラン斯ノ如クコノ學問ヲ賤シ
ク視做セシカ故ニ其由テ起リシ年代ヲモ知リ難クシテ
唯コレヲ推量スルノミナレ氏古ヨリ慥ニ事實ニ行ハレ
タルハ疑アラザルナリ
諺ニ云ク擡ナキトコツ工夫ノ母ナレト都テ世ノ學問ハ

吟味詮索ト工夫トニテ出来ルモノナレバ學問ハ擧ナキ
トヨリ生ズル子ト云フモ可ナリ帳合ノ學問モ右ノ通り
ニテ畢竟擧ナキトヨリ生シタル者ナリトノトハ天下
般止ムヲ得ズシテ皆コノ學問ヲ日用ニ施スヲ以テ知ル
可キナリ
人ノコノ世ヲ渡ル有様ヲ形容シテ云ハ、不足不自由ニ
迫ラル、モノト云フ可シ渡世ノ工夫目途ハコノ不足不
自由ヲ満足セントスルトヨリ外ナラズ即是レ人間ノ擧
ナキ仕事ナリ^五コノ擧ナキ場合ヨリシテ稼ノ道モ起リ儉
約ノ心モ生シテ藝術ノ進ヲ助ケ文明ノ基ヲ開クナリ

^六人生ノ不自由ヲ満足セシメンニハヨク心ヲ用テ急ラザ
レバ此地球ノ産物ヲ資テ餘アル可シ是レ天地ノ大ナル
仕裁ナリ且人ノ事ヲ企テ術ヲ施スニモ其道際限アルト
ナシ
^七人ノ不足不自由ヲ計レバ其數擧テ云フ可ラズ隨テコレ
ヲ満足セシムル方便モ亦甚タ多シ故ニ此職業ト彼ノ職
業ト互ニ相依頼スルハ唯儉約ノ道ト云フ可キノミナラ
ズ實ニ止ムヲ得ザルノ勢ナリ汝ノ額ノ汗ニテ汝ノ食ヲ
食ヘトハ天ノ法則ニテ抑モコノ法則ノ定リシ其時ヨリ
既ニ已ニ職ヲ分チ富ヲ分ツノ道ハ行ハレタルナリ

長公之公
卷之一

土地ヲ耕ス者ノ産物ハ以テ飢ノ不自由ヲ満足セシメ反
 物ヲ織ル者ノ産物ハ人ノ身体ヲ被ヒ細工人ノ産物ハ人
 ノ風韻ヲ悦バシメ學者ハ人ノ心ヲ養ヒ説法者ハ人ノ精
 神ヲ開キ人足ハ物ヲ荷テ人ノ肩ヲ輕クスル等各互ニ依
 頼シテ或ハ心ヲ慰メ或ハ身体ヲ快クシテ人々ノ不足不
 自由ヲ満足セシムルナリ斯ノ如ク人々互ニ其愉快満足
 ヲ交易スルヲ基ト為シコノニ經濟ノ一大法ヲ定メ其
 法ヲ勵マシテ世ニ行ハレシムルナリ其經濟ノ一大法ト
 ハ何ソヤ云ク高賣是ナリ
 コノ交易ヲ便利ニスルタメニハ價ノ本位ヲ立テ、高賣

ニ取扱フ品々ノ位ノ高下ヲ定メザル可ラズコノ本位ヲ
 立ル品物ニハ大低金ト銀トヲ用ユコノ金銀ハ亦以テ交
 易ヲ行フ取次ノタメニモ用ルナリ開ケタル國々ニテハ
 金銀ヲヨキ程ニ令テ貨幣ヲ造リ其價ヲ記ルスタメニ極
 印ヲ押シテ證據ト為シ或ハ正味ノ貨幣ヲ用ヒ或ハコレ
 ヲ書付ニ寫シテ其價ヲ用ヒ以テ高賣ノ便利ヲ達スルナ
 リ
 帳合ノ學問ハ様々ノ事ニ付キ大ナル益アルモノナレ氏
 其格別ニ人用ナル所ハ前条ニ云ヘル交易ノ扣ヲ為スハ
 一事ニ在リ若シモコノ扣ナクバ交易ヲ為ス毎ニ一々通

用金ヲ用ユル筈ナル可シ今コ、ニ帳合ノ法ノ一端ヲ示
ス一尤ノ如シ
譬へバコ、ニ八兵衛ト云フ百姓ト山城屋ト云フ織物屋
ト都合ニ住居シテ八兵衛ノ作出シタル穀物ハ我家内ノ
者ヲ養ヒシ上ニ又鄰ノ家内ヲモ養フ可キ程ニ多カラシ
鄰ノ山城屋ニテ織リシ及物モ亦多クシテ我家ト鄰ノ家
ト二軒ノ用ヲ為スニ十分ナラシ斯ル場合ニテハ八兵衛
モ山城屋モ各其餘ル物ヲ持出シテ食物ト着物トヲ交易
スルノミ其事甚タ易シ是等ノ交易ニハ固ヨリ扣ヲ用ル
程ノ一モアラズ且又世ノ中ノ高賣ナルモ、是等ノ交易

ニテ事ヲ終ラバ如何ナル愚鈍ナル人物ニテモ其帳合ヲ
見テ分リ兼ル一モナカル可シ然レモコ、ニ又趣ノ異ナ
ル一アリ譬へハ山城屋ニテ差向キ飯米ノ入用アリテ鄰
家ニ餘リタル米ヲ得ント思へトモ丁度其時自今ノ家ニ
餘ル品物モナクシテ米ノ代リヲ與フ可キ方便ナキ一ア
ラン依テ八兵衛ニ云ヒケルハ余ガ家ニハ今飯米ノ入用
アレモ即時ニ代リテ渡ス一能ハズ君若シ余カ面目ヲ信
ジテコレヲ貸ス一アラバ今余ガ取掛リシ仕事ノ出来上
リ次第直ニ代リノ品ヲ與フ可シトノ談シニテ八兵衛モ
コレヲ兼知シ乃チ山城屋へ米ヲ送りテ双方ノ間ニ約束

整ヒタリ扱コノ八兵衛ナル者生レ付極々記憶慥ナル男
 ナラバヨク此約束ヲ覺ヘ鄰ノ山城屋ヘ貸アリテ何程カ
 ノ織物ヲ何月何日ニ受取ル可キ筈ナリトノコトヲ常ニ心
 ニ忘ル、トナカル可シ十五レ世ノ中ニ斯ク記憶ヨキ人
 モ稀ナレバ八兵衛トテモ此約束ヲ唯自分ノ胸ニノミ記
 憶スルヲ不安心ニ思ヒ又鄰家ノ主人ノ記憶ノミヲ頼ニ
 スルモ安心ト思ハレズ故ニ何欵形アルモノヲ作りテ後
 ノ日ニ品物ヲ受取ル可キ證據ト為シ假令ヒ以前ノ約束
 ハ忘ル、トモ或ハ其約束ヲ為シテ事ニ關係シタル當人
 ハ不在ナルモ此證據ノミハ慥ニ存シテ双方ノタメニ便

利ナラシムテ願フ可シ即チ其證據トハ紙ニ書キタル扣
 ナリ此事ニ付キ約束ヲ踐ム可キ筈ノ人ト定タル相手ノ
 入ハ山城屋ナリ故ニ八兵衛ノ方ニテ扣ヲ作ルニ當然ノ
 書方ハ帳面ニ山城屋ノ名前ヲ記シテ其下ニ事ノ次第ヲ
 書留メ置ク可キナリ其体裁左ノ如シ

山城屋

八兵衛ヨリ米何俵買取り此直段金十圓ナリコノ代リ
 トシテ何月何日織物何反渡ス可キ旨コレヲ約束セリ
 一譯者註日本流ノ帳合ナレバ八兵衛ノ帳面ニハ八兵
 衛ヲ主人ニ立テ山城屋ヲ相手ニ定メテ文ヲ作ルユ

帳面ノ文モ自カラハ兵衛ノ言葉ト為リ譬へハ米
何俵山城屋へ賣渡シ此直段云ミト記スナレ氏西洋
流ノ帳合ニハ八兵衛ノ帳面ニ山城屋ト口取ノ場ヲ
立テ、其名前ノ下ニ取引ノ次第ヲ書留メ恰モ他人
ノ書キシ文言ノ如シ即是レ日本流ト西洋流ト帳合
ノ異ナル一箇条ナリ故ニ西洋流ノ帳合ヲ見テ山城
屋ニテモ大和屋ニテモ人ノ名前アリテ其下ニ借貸
ノ扣アラバ其扣ハ名前ノ人ノ身ニ引受タル借貸ノ
ノ有様ヲ書留メタルモノニテ借ハ其名前人ノ借ニ
テ帳主ノ貸ナリ貸ハ名前人ノ貸ニテ帳主ノ借ナリ

ト思フ可シ

右ノ如ク記ス氏ハ事ノ次第明白ニシテ八兵衛ニモ自分
所持ノ物ヲ他人ノ手ニ貸渡シタリトノ一ニ付キ十令ノ
證據アル可シ若シコノ類ノ約束何レモ皆コノ通りニテ
入組ミシトナクバ別ニ簡略ナル扣ノ法ヲ工夫スルニモ
及バザルヲナレ氏人々ノ取引ハ甚タ多キモノニテ譬へ
バ八兵衛モ山城屋ノミヲ相手トスルニ限ラズ他人々
ニモ借貸ノ約束アルベケレバ其帳合モ今一段行届キテ
手数ヲ省ク可キ法ヲ求メザル可ラズ
右ノ扣ニ著シタル正味ノ事柄ヲ云へバ唯山城屋ガ八兵

長
右ノ扣ニ著シタル正味ノ事柄ヲ云へバ唯山城屋ガ八兵

衛へ代金十圓ノ反物ヲ借ルト云フマデノナリ十九ノ事
 ニ付キ何カ變リタル箇条ノ差起ルヲアラバ其箇条ハ唯
 コノ借ヲ残ラズ返ス歟少シク返ス歟残ラス返シテ餘ル
 ホドニ品物ヲ渡ス歟或ハ少シモ返サズシテ重子テ又借
 ル歟是等ノ箇条ヨリ外ナラザルナリ故ニ人ニ物ヲ貸シ
 テコレト取引スルニハ唯二ツノ事アルノミ即チ借ルト
 借ラルトトノ二箇条ナリ二十ノ二箇条ハ如何ニモ相對シ
 相反シタルモノニテ兩様相同ジキハ互ニ相消シテ何
 モナキニ等シキナリ
 故ニコノ相對シタル兩様ノ箇条ヲ其事ニ關係セル人

ノ名前ノ下ニ記シテ其事柄ヲ明ニシ一目ニテ兩様ノ鈞
 合ヲ分ルヤウニ書留ルヲハ甚夕易シ其例左ノ如シ
 借 山城屋 貸

一月	米	拾俵	一月	大中羅紗	一丈
二月	麥	拾五俵	二月	正金	五

此書方ハ用來リニテ簡略ナレ氏詳ニシテ實用ニ叶フモ
 ノトスコレヲ勘定書ト名ク即チコノ書付ノ通りニテ山
 城屋トノ取引ヲ記シタルモノナリ書付ヲ上下二段ニ分
 チ上ノ段ニハ山城屋ヨリ我方へ對シテ同人ノ借ノ高ヲ
 記シ下ノ段ニハ我方ヨリ山城屋へ對シテ我方ノ借ヲ記

シタルガ故ニ双方ノ高ヲ差引シテ過不^レ見レバ其過
不足ハ我方ヨリ山城屋ヘ貸シタルモノ歟山城屋ヨリ我
方ヘ貸シタルモノ歟両様ノ外ナラズ即チ山城屋ガ我ニ
借ル^レ我山城屋ニ借タルヨリ多クレバ其差引ノ差ハ我
方ノモノニテコレヲ我元手ノ手當ト視ル可キナリ之ニ
コトカヘ我方ヨリ山城屋ニ借ル^レ同人ガ我ニ借リタル
高ヨリモ多クレバ其差引ノ差ハ山城屋ノモノナレバ即
チ同人ノ元手ニシテ我方ノ借ナリ右ノ勘定書ニ記シタ
ル事柄ヲ解キ明ラカニスレバ左ノ如キナリ即チ一月二
日山城屋ナル者我方ヨリ十圓ニテ米拾俵ヲ買テ其代ヲ

拂ハズ同月十五日大中ノ羅紗一丈ヲ我方ヘ賣リ其代ニ
テ先ノ借ヲ拂フニ十分ナリ故ニ勘定書ノ上下ニ記シタ
ル金ノ高正シク相對シテ差引ノ過不足ナク同シ時ニ同
ジ位ノ物ヲ交易シタルニ異ナラズ又三月一日ニ同人十
二圓五十錢ニテ麥拾五俵ヲ買テ其時ニ代金ヲ拂ハズ四
月一日ニ至テ正金五圓ヲ我方ヘ拂フタリコレニ由テ山
城屋ノ勘定ニハ十二圓五十錢ト五圓トヲ差引シテ其差
ダケ不足ナルユヘ同人ハ我方ヘ對シテ七圓五十錢ノ借
アルモノト云フナリ右ノ次第ニテ我方ヘ八目ニ見ル可
キ書付ノ證據アリテ物ヲ失フ^レナシ若シ此書付ヲ用ヒ

ズシテ唯記憶ノミヲ頼ニスルヲアラバ折節ハコレヲ忘
レテ損亡スルヲアル可キナリ

譯者註第六丁ノ註ニモ云ヘル如ク西洋流ノ帳合ニハ
取引ノ先ノ人ノ名前ヲ記シ其裏ニアル借貸ノ差引ハ
當人ノ身ニ引受タル有様ヲ記シタルモノユヘ日本流
ノ帳合ニ慣レタル人ノ目ニハ一寸紛ラハシク見ユル
トモアラシキ本文山城屋ノ勘定書ニテモ上ノ段ニ借ト
記シ下ノ段ニ貸ト記シタルハ山城屋ノ借貸ニテ此帳
面ノ主人ノタメニハ上段ハ貸ニシテ下段ハ借ナリ日
本人ニ分り易クスルニハ或ハコレヲ出ト入トニ書替

ハ借ノ裏ニ出ト記シ貸ノ裏ニ入ト記シナバ我家ヨリ
金ガ出我家ニ金ガ入タリト云フ考ニテ初學ノ者ニ便
利ナラント思ヒ譯者ニモ夫等ノ頓智ハナキニ非ザレ
氏顧テ又考レバ方今世ノ中ニ外國ノ交易次第ニ行ハ
レ外國人トノ取引追々繁クナルニ從ヒ帳合モ彼ノ國
ノ風ニ一樣ナラズシテハ必ズ大ナル不便利アル可シ
トノ見込ニテワザト原書ノマ、ニ直譯シテ借ノ裏ニ
借ト記シ貸ノ裏ニ貸ト記シタルナリ
又十圓ト記ス可キ裏ニ一ト記シ十二圓五十錢ノ裏ニ
一三五ト記セリコレモ西洋流ノ書方ナリ都テ金高ノ數

字ヲ記スニハ先ツ金ノ位ノ場所ヲ定メ圓ノ位ノ裏ニ
 一。トアレバ十圓ナリ。二トアレバ十二圓ナリ。三ト零ノ
 丸ヲ二付レバ百圓。一。三付レバ千圓ナリ。錢ノ位ノ
 裏ニテ五。トアレバ五十ノ字ニテ五十錢ノナリ尚詳
 ナルハ凡例ニ見ヘタリコレモ初學ノ人ニハ合点シ難
 キトアランカト思ヒシナレト早晚一度ハマルデ西洋
 流ニナル可キ世ノ中ナレバ最初ヨリ思切テ其流ニ從
 ヒシナリ念ノタメ此山城屋ノ勘定書ヲ日本流ニ記シ
 テ左ニ示スユヘ両方照合セテ流儀ノ異ナル裏ヲ知ル
 可シ日本流ナレバ帳面ハ横帳ヲ用ヒテ上段下段ノ區

別ナク帳面ニ口取ノ座ト云フモノアリテ譬ヘバ山城
 屋ノ座ノ裏ヲ開キ見レバ其書方左ノ如シ

山城屋

百
 出金拾圓
 十
 八金拾圓
 百
 出金拾圓
 百
 入金拾圓

米拾俵代
 羅紗拾俵代
 麦拾俵代
 正金拾圓

右ノ如ク横ニ長ク書下シ差引ノ氏ハ出ト入トヲ一ツ
 拾ヒ上ケテ勘定スルガ日本流ノ大法ナリ

右ノ次第ニ付キ双方ノ間ニ物ヲ交易シテ一方ハ其物ヲ
直ニ渡サズシテ時ヲ延引スル氏ハ其事柄ヲ書留メテ扣
ヲ作ラザル可ラズ帳合ノ法トハ即チコノ扣ノ書留ヲ元
ニシテ用ヲ便ズルナリ
前ニ記シタル趣ニ由テコレヲ見レバ明ニ左ノ箇条ヲ知
ル可シ即チ勘定書ハ上下二段ニ分チ上ヲ借ト名ケ下ヲ
貸ト名ケ借ノ方ヘハ其名前ノ人ノ我方ヘ借りタル高ヲ
記シ貸ノ方ヘハ其人ニ對シテ我方ノ借ヲ記セリ借ノ方
多ケレバ其多キダケノ差ハ我貸シタル高ナリ貸ノ方多
ケレバ其多キダケノ差ハ我借りタル高ナリ故ニ借ノ方

ニ餘リタル高ハコレヲ我身代又ハ元手トモ云フ可シ貸
ノ方ニ餘リタル高ハコレヲ我借財又引負トモ云フ可キ
ナリ
往古帳合ノ法ノ始テ世ニ行ハレシ頃ハ高賣スルニモ前
条ニ記セル勘定書ノ法ノミヲ用ヒテ不自由モナカリシ
ナラシ此時代ニハ高賣ノ道モ狭キナレバ唯其出入
借貸ヲ書面ニ記シ置キ人ノ記憶ヲ頼ニセズト云フマデ
ノ一ニテ差支ナカリシナリサレ氏世ノ中ノ高賣ニ借貸
ノ法次第ニ手廣ク行ハルノ場合ニ至テハ其高賣ノ事
ニ付キ日々差起ル所ノ手續ヲ書留メザル可ラズ故ニ今

世間一般ノ仕来ニテ商人ノ家ニハ必ズ日記帳ヲ作り毎日差起ル所ノ事柄ヲ其時ニ隨テ記シ置クノ風トナレリ今コ、ニ日記帳並ニ大帳ノ書法ヲ示サンタメ一例ヲ舉ルト左ノ如シ

明治六年

日記帳

一月三十日

東京三田 福澤屋諭吉

一月	大和屋	大巾羅紗	五尺	四四〇〇セク	二〇	借
		びろ	五尺	四一五〇セ	一五	

二月	大和屋	黒羽二重	二丈	四一、二五セ	三七五〇	
		フラ子ル	武丈五尺	五〇セ	一二五〇	
		黒地形付絹	五丈	四一、五〇セ	一五	
		小巾羅紗	五尺	四三〇〇	一五	
		差引金ニテ			七五	貸

右ニ記シタル日記帳ノ書留ヲ大帳ヘ寫スニハ其書方左ノ如シ大帳トハ勘定ノ差引書ヲ帳面ニ作りタルモノナリ

大帳

借

大和屋

貸

一月	品物	一一五	二月	差引金ニテ	七五
一日			一日		

^{四三}略式ノ帳合ニ用ル日記帳ト大帳ニハ唯他人ヲ相手ニシ
^{四二}シテ順序ヲ誤ラズ其便利一ナリ日記帳ニ商賣取引ノ事
 ヲ委シク記セバ大帳ヘハ唯其勘定ノミヲ寫シテ手數ヲ
 省キ大帳ノ面ヲ簡略ニスルヲ得ベシ其便利ニナリ
 略式ノ帳合ニ用ル日記帳ト大帳ニハ唯他人ヲ相手ニシ

タル商賣ノ取引ヲ記スノミナレ^{四十四}氏事ニ念ヲ入ル、人ハ
 金銀ノ出入他ノ手形ノ受取渡シ自分ノ手形ノ仕出シ其
 手形ノ引替等或ハ他人ニ關係ナキニテモ詳ニコレヲ
 書留メザル可ラズ^{四十五}故ニ是等ノ事ヲ記スタメニハ別ニ又
 帳面ノ種類アリ左ノ例ハ其最モ簡略ナルモノナリ

金銀出入帳

有金

一月	河内屋ヨリ差引受取	三〇〇〇	四七
一日		一五〇	四七

帳簿之類 卷之一

店入用拂雜費帳ノ通り
 和泉屋へ一日限ニテ貸ス
 大坂屋ヨリ品物代受取
 伊賀屋ヨリ同断
 伊勢屋へ差引拂切
 店小賣代

手元残金
 送高

二	三、三五三	一	七五	一七五
二、二七八七五	七五	一八七五	四〇〇	五〇〇
	三、三五三七五	二、二七八七五		
	七五			

手形帳

請取口手形

番	手形請取 ノ月日	差図人又 請取人	引受人又 仕出方	月日	日限	渡シ日	金高	月日始末
一	明治六 一ノ一	山城屋	大和屋	明治五 十二ノ一	六十日	明治六 二ノ二	五〇〇	明治六 二ノ二 拂ス
二	一ノ五	河内屋	和泉屋	明治六 一ノ五	三十日	二ノ七	一〇〇	二ノ七 拂ス
三	二ノ一	大坂屋	伊賀屋	一ノ十	九十日	四ノ十三	一五〇	
四	二ノ十五	伊勢屋	志摩屋	二ノ十五	六十日	四ノ十七	三〇〇	

張合之法 卷之一

拂口手形

番	手形渡 ノ月日	差圖人又 請取人	引出人又 仕出方	月日	日限	渡シ日	金高	月日始末
一	一ノ十二	尾張屋	此方	一ノ十二	十五日	一ノ三十一	一五〇	明治六 一ノ三十 拂ス
二	三ノ一	三河屋	此方	三ノ一	九十日	六ノ二	七五〇	
三	三ノ一	遠茹屋	此方	三ノ一	六十日	四ノ五	三〇〇	

〔譯者註〕手形トハ為替手形ノ類ヲ云フナリ譬へバコノ
 帳面ヲ駿河屋ノ帳面トシ駿河屋ハ兼テ山城屋並ニ大
 和屋へ取引スル者ニテ山城屋ヨリ駿河屋へ渡ス可キ
 金五百圓アルキ山城屋ニテ手形ヲ作テ駿河屋へ渡シ

コノ手形ヲ證據ニシテ五百圓ヲ大和屋ヨリ受取ル可
 シト差圖スルナリ然ルキハ山城屋ハ差圖人ニテ大
 和屋ハ引受人ナリ或ハ兼テ大和屋ヨリ金子五百圓ヲ
 拂フ可シトノ手形ヲ仕出シテコレヲ山城屋へ渡ス歟
 又ハ他人へ渡シタルモノ次第ニ受取渡シノ人ヲ經テ
 遂ニ山城屋ノ手ニ入ルナレバ山城屋ハコノ手形ノ
 裏ニ自分ノ姓名ヲ記シテコレヲ駿河屋へ渡スベシ駿
 河屋ハ正金五百圓ノ代リニコノ手形ヲ受取リコレヲ
 大和屋へ渡シテ金ト引替ニスルナリ然ルキハ山城屋
 ハ請取人ニテ大和屋ハ仕出方ナリコノ手形ヲ受取口

ノ手形ト云フ○本文ノ表ニアル番トハ諸方ヨリ駿河
屋へ手形ヲ受取タル順番ヲ記シタルモノナリ○手形
受取ノ月日トハ駿河屋へ手形ヲ受取タル月日ナリ○
差圖人請取方引受人仕出方ノイハ前ニ詳ナリ○月日
トハ山城屋款又ハ大和屋ニテ手形ヲ作りシ日ノ月日
ナリ○日限トハ手形ヲ作りシ日ヨリ金ヲ渡ス日マデ
約束ノ日限ナリ○渡シ日トハ大和屋ニテ金ヲ渡ス日
ナリ○金高トハ手形面ノ金ノ多少ナリ○月日始末ト
ハ何月何日如何ナル始末ニナリシヤノ次第ナリ
拂口手形ノ次第ハ左ノ如シ尾張屋ニテ差圖ノ手形ヲ

作テ直ニ駿河屋ヨリ金ヲ受取ル款又ハコノ手形ヲ他
人ニ渡シテ駿河屋ヨリ金ヲ受取ラシムルナリ然ル氏
ハ尾張屋ハ差圖人ナリ或ハ又駿河屋ニテ作りタル手
形ヲ尾張屋へ受取り尾張屋ニテコレニ裏書シテマタ
駿河屋へ返シ金ヲ受取ルイモアリ然ル氏ハ尾張屋ハ
受取方ナリ右何レモ金ヲ拂フ者ハ駿河屋ナルユハ引
請人仕出方ハ此方ト記セリ
右ハ略式ニ用ル帳合ノ簡略ナル仕方ナレ氏高賣ノ扣ニ
ハ欠ク可ラザルモノニテ一ト通りノ用辨ニハ十分ナル
可シコノ第一編ノ教ニ於テハ略式ノ諸法ヲ記シ稽古人

チシテ次第ニムツカシキ裏ニ進ミ第二編ニ説ク所ノ本式ノ帳合ヲ解スルニ易カラシメントスルナリ

本文ノ問題

- 一 學問ノ本趣意ノ價ヲ知ルニハ如何ス可キヤ
- 二 コノ一義帳合ノ學問ニ於テ最モ然ルハ何故帳合ノ學問ヲ他ノ學問ト同様ニ取扱ハザルハ何故
- 三 人ノコノ世ヲ渡ル有様ハ如何
- 四 コノ擧ナキ場合ヨリ何事カ起ルヤ
- 五

- 六 如何シテ人生ノ不自由ヲ満足セシム可キヤ
- 七 人ノ不足不自由ヲ満足セシムルタメ何等ノ仕方世ニ起ルヤ
- 八 人ノ種類身分ノ二三ヲ擧ケ其互ニ依頼スル模様ハ如何
- 九 高法ノ基ト為リテ其法ヲ勵マスモノハ何モノナルヤ
- 十 コノ交易商賣ヲ便利ニスルハ何モノナルヤ
- 十一 コノ本位ヲ立ルニハ何モノヲ用ルヤ
- 十二 帳合ノ學問ノ格別ニ入用ナル所ハ何事ニア

ルヤ

十三

八兵衛ト山城屋トノ間ニ穀物ト織物トヲ同

時ニ交易セリ是等ノ交易ニ扣ヲ用ルイ實

ニ必用ナルヤ

十四

織物ノ渡方延引スレバ何故ニ紙ニ書キタル

扣ヲ用ルヤ

十五

上ニ示シタル例ニ於テ八兵衛ノ方ニテ扣ヲ

作ルニ其當然ノ書方ハ如何

十六

コノ扣ハ明白ナルヤ

十七

今一段行届キテ手數ヲ省ク可キ法ヲ求ルハ

何故

十八

右ノ扣ニ著ハシタル正味ノ事柄ヲ云ヘバ如

何

十九

コノ事ニ付キ起ル可キ變ハ如何

二十

人ニ物ヲ貸シテ取引スルニ幾許ノ箇条アル

ヤ

二十一

コノ二箇条ノ釣合ハ如何

二十二

コノ相及シタル二箇条ヲヨキヤウニ記ス法

ハ如何

二十三

コノ書方ヲ何ト名ルヤ

二十四 コノ勘定書ニハ何ヲ記シタルヤ

二十五 勘定書ノ上下ノ段ニハ何ヲ記スヤ

二十六 勘定書ノ双方ノ高ヲ差引シタル過不足ハ何

モノナルヤ

二十七 山城屋トノ勘定書ニアル事柄ヲ解キ明ラカ

ニスレバ何事ナルヤ

二十八 双方物ヲ交易シテ一方ハ直ニ其物ヲ渡サシ

ルキハ如何ス可キヤ

二十九 コノ扣ヲ元トシテ用ヲ便ズルモノハ何モノ

ナルヤ

三十 勘定書ハ幾段ニ分ツヤ

三十一 コレヲ何ト名ルヤ

三十二 借ノ方ヘハ何ヲ記スヤ

三十三 貸ノ方ヘハ何ヲ記スヤ

三十四 借ノ方多ケレバ如何

三十五 貸ノ方多ケレバ如何

三十六 借ノ方ニ餘リタル高ハ何物ナルヤ

三十七 貸ノ方ニ餘リタル高ハ何物ナルヤ

三十八 往古ヲ按ズルニ其勘定書ノ法如何ナリシヤ

三十九 コノ法ノミニテ差支ナカリシトハ何故

四十 今世借貸ノ商賣繁昌ノ日ニ至テハ右ノ外何

等ノ扣入用ナルヤ

四十一 世間一般商人ノ家ニ何等ノ帳面ヲ用ルヤ

四十二 日記帳ノ便利如何

四十三 畧式ニ用ル日記帳ト大帳ニハ何等ノ取引ヲ

記スヤ

四十四 事ニ念ヲ入ル、人ハ右ノ外ニ何等ノ事ヲ記

スヤ

四十五 如何シテコノ事ヲ記スヤ

略式帳合第一式

日記帳並ニ大帳ヲ用ユ但シ諸帳面一般ノ始末ハ記
サズシテ唯日記帳ト大帳トノ用法ヲ示スノミ

端書

左ニ示ス所ノ法式ハ帳合ノ最モ簡略ナルモノニテ即チ
日記帳ト大帳トノ事ヲ記スナリ此式ハ唯一通りノ手引
草ニテコノ二帳ノ体裁ト用法トヲ示スマデノ一ナリ但
シコノ二帳ハ其用ノ最モ廣キモノナリ
商人タル者ハ何時ニテモ自分ノ高賣ノ有様ヲ慥ニ知ル
ト緊要ナレバ常ニ元手ノ手當ト諸向ノ拂口トヲ調べ明

ニコレヲ書留メザル可ラズ即是レ帳合ノ大趣意ナリ左
 ニ示ス所ノ日記帳ト大帳トニテハ未ダ全ク其趣意ヲ盡
 サレ氏他帳ノ用法ヲ稽古スル前ニ大凡ソ元手ト拂口
 トノ模様ヲ合点スルタメ先ツコノ二帳ノ事ヲ心得ザル
 可ラズ
 略式ニ用ル大帳ハ高賣ニ取引スル人々トノ關係ヲ示ス
 モノナレバ唯他人ヲ相手ニシタル勘定ノミヲ記スナリ
 故ニ日記帳ニアル事ハ盡ク大帳へ寫シ日記帳ニモ唯他
 人トノ取引ヲ記スノミ
 略式ニ用ル日記帳ハ簡畧ナルモノニテ大帳ノ面ニ借方

トナリ或ハ貸方トナル人ノ名前ヲ記シ借方ナレバ借ノ
 字ヲ記シ貸方ナレバ貸ノ字ヲ記シ其次ニ金ノ高ト事ノ
 次第ヲ記シ然ル後コノ日記帳ノ書留ヲ大帳ニ寫シ取引
 ノ始末ヲ示シテ他人トノ勘定ヲ明ニスルナリ
 此第一式ニ示ス所ノ帳合ハ高賣ノ數モ少ナク其事柄モ
 入組シイナシ元來高賣一体ノ始末ヲ記ス趣意ニハ非ラ
 ス唯大帳ノ面ニ顯ハル、扣ノ体裁ヲ示スマデノミナリ
 ナリ
 學者宜シク帳面ノ体裁ト書方トヲ心得テ試業ヲ誤ル
 ナク尚進テ次ノ法式ニ入り次第ニ研究ス可キナリ但シ

帳合之簿

卷之一

試業ノ題ハコノ第一式ノ未ニ出セリ

第一式

明治六年

七月一日

日記帳

東京三田
福澤屋諭吉

丁 山城屋

上茶喜撰

拾斤

一二セク

一二。

同玉露

五斤

一

白砂糖

貳拾斤

一二セ

三

丁 大和屋

干葡萄

五箱二十斤八

二〇セク

借

五

五二。

借

丁

長谷川

卷之一

三河内屋

酢

五升

一日

上茶

三升

七五セク

二二五

借

蜜柑

四箱

四一。

四

七

三和泉屋

塩漬豚肉

五拾升

一一セク

五五。

借

塩鱈

五箱

二

七五。

差引金ニテ

貸

五

二大坂屋

麦粉

五俵

三日

借

八

三伊賀屋

上酢

五升

七五セク

三七五

借

芋

三俵

四一。

三

六七五

三伊勢屋

たゞ砂糖

六升

七五セク

四五。

借

白砂糖

五拾升

一二セ

六

コツヒイ

拾貳升

一一セ

一三二

一一八二

三伊勢屋

一一八二

<p>三丁 志摩屋</p> <p>塩漬豚肉 三樽</p> <p>白砂糖 三箱各五百斤入</p>	<p>四丁 尾張屋</p> <p>品物代送怀ノ通り</p>	<p>三丁 志摩屋</p> <p>尾張屋ノ差込ニテ</p>
<p>六日</p> <p>六七之</p> <p>一一</p> <p>九〇</p> <p>借</p>	<p>借</p> <p>貸</p>	<p>日</p> <p>貸</p>
<p>一〇一</p>	<p>三〇〇</p>	<p>一〇一</p>

<p>四丁 三河屋</p> <p>棒砂糖 百斤</p> <p>同粉 八拾斤</p> <p>たろー砂糖 三樽</p>	<p>四丁 遠州屋</p> <p>米 子八百斤</p>
<p>八日</p> <p>九七之</p> <p>八七</p> <p>九</p> <p>四</p> <p>六〇</p> <p>借</p>	<p>十日</p> <p>四二〇</p> <p>三七之</p> <p>借</p>
<p>七三</p>	<p>五四</p>

帳簿之流
卷之一

第一式

大帳

借 山城屋 貸

七月一日 品物 丁一 五二。

借 大和屋 貸

七月一日 干葡萄五箱 丁一 五

丁
帳簿之流
卷之一
三十一

帳合之簿

卷之一

借	七月 日一	諸品	丁二	七	河内屋	貸
借	七月 日一	諸品	丁二	七五〇	和泉屋	貸
				七月 日二	差引金ニテ	
				丁二		
				五		
借	七月 日三	麦粉 七俵	丁三	八	大坂屋	貸

帳合之簿

卷之一

借	七月 日三	諸品	丁三	六七五	伊賀屋	貸
借	七月 日五	諸品	丁三	一一八二	伊勢屋	貸
借	七月 日六	諸品	丁四	一〇一	志摩屋	貸
				七月 日七	尾張屋ノ差引金ニテ	
				丁四		
				一〇一		

七月 廿七	借	志摩屋渡リノ差図	丁四 一〇一	尾張屋	貸
七月 廿八	借	三河屋	丁五 七三	三河屋	貸
七月 廿八	借	諸品	丁五 七三	遠州屋	貸
七月 廿九	借	米	丁五 五七	遠州屋	貸

〔譯者註〕第一式日記帳ノ四丁志摩屋ノ借百零一圓、貸モ亦百零一圓、尾張屋ノ貸三百圓、借百零一圓、トアリ其取引ノ勘定左ノ如シ此帳面ノ主人ヲ福澤屋ト為シ志摩屋ハ福沢屋ヨリ豚肉一樽ヲ十一圓白糖三箱千五百斤ヲ一介六錢ガヘニテ買ヒ此代金九十圓豚肉代ト合シテ百零一圓ノ高、福澤屋ニ借ナリ尾張屋ハ代金三百圓ノ品物ヲ福沢屋へ賣リ三百圓ノ貸アリ然ルニ尾張屋ト志摩屋トハ兼テ取引アル者ニテ尾張屋ヨリ福沢屋へ差圖シ右三百圓ノ内百一圓ダケ志摩屋ノ買受ケシ品物代トシテ引去ル可シトノ撮合ニ由リ尾張屋ノ

名前ノ裏ニ志摩屋渡リノ差圖ノタメ百一田借ト記シ
志摩屋ノ裏ニハ尾張屋ヨリノ差圖ニテ百一田貸ト記
セリ故ニコレヘ寫シ志摩屋ハ諸品ノ代ニテ百一田借
尾張屋ノ差圖ニテ百一田貸ト為リ借貸相對シテ差引
ナク尾張屋ハ志摩屋渡リノ差圖ニテ百一田借品物代
ニテ三百田貸ト為リ三百田ノ内ヨリ百一田引キ残り
百九十九田此高ハ全ク尾張屋ヨリ福澤屋ヘノ貸ニテ
福沢屋ノ借財ナリ
日記帳ノ名前ノ上ニ丁數ヲ記シ譬ヘハ山城屋ノ上ニ
ハ一丁伊賀屋ノ上ニハ三丁トアリコレハ大帳ノ見出

シニテ山城屋ノ事ハ大帳ノ一丁ニ寫シ伊賀屋ノ事ハ
三丁ニ寫シタリトノ印ナリ大帳ノ方ニモ丁數ヲ記シ
テ日記帳ノ見出シト為シ双方照合ハセテ帳面ノ調ヲ
便利ニシタルモノナリ

稽古人ノ試業第一番

左ニ示ス所ノ取引ヲ第一式ノ法ニ從ヒ正シク日記帳ニ記シテ又コレヲ大帳ニ寫ス可シ

覺

一月一日山城屋へ麥粉一石拾圓替ニテ五石賣渡シ代金差引大和屋へ「コツヒイ」一斤十一錢替ニテ六斤上茶一斤七十五錢替ニテ五斤賣渡シ差引金二圓受取タリ
○同二日河内屋ヨリ蜜柑一箱五十錢替ニテ五十箱「芋一俵二圓五十錢替ニテ五十俵買入レ代金差引」○同三日和泉屋へ蜜柑一箱七十五錢替ニテ十箱上茶一斤七

十五錢替ニテ三斤賣渡シ代金差引○同四日河内屋へ差引金百圓ヲ拂タリ○同五日大坂屋へ大中羅紗一尺三圓替ニテ二尺白砂糖一斤八錢替ニテ五十斤金巾一尺十錢替ニテ三大賣渡シ代金差引○同七日伊賀屋ヨリ芋一俵二圓五十錢替ニテ十俵買入レ代金差引○同八日伊勢屋へ芋一俵三圓替ニテ五俵蜜柑一箱六十八錢替ニテ十箱賣渡シ代金差引○同十日河内屋へ正金五十圓ヲ拂タリ○同十一日志摩屋へ大中羅紗一尺五圓替ニテ一大賣渡シ正金五十圓ヲ受取タリ○同十二日尾張屋へ「コツヒイ」一斤十二錢替ニテ八斤極上茶一

斤一圓替ニテ三斤、粉砂糖一斤十二錢替ニテ五十斤賣
渡シ代金差引

〔譯者註〕代金差引トハ品物ヲ賣買シテ現金ニ拂ハズ
以前ノ勘定ニテ差引スル歟又ハ其後ニ他ノ品物ヲ
渡ス歟又ハ正金ヲ拂フ歟何レニモ即時ニ代金ヲ拂
ハズシテカケニスルトナリ

本文ノ問題

- 一 第一式ニハ何等ノ事ヲ記スヤ
- 二 此式ハ何用ヲ爲スヤ
- 三 帳合ノ大趣意ハ如何

- 四 第一式ニテ全ク此趣意ヲ達ス可キヤ
- 五 略式ニ用ル大帳ニハ何ヲ記スヤ
- 六 日記帳ニハ何ヲ記スヤ
- 七 略式ニ用ル日記帳ニ書留ル体裁ハ如何
- 八 コノ書留タル事ヲ何ヘ寫スヤ
- 九 コレヲ寫シテ何事ヲ明ニスルヤ
- 十 コノ第一式ニ於テ高賣一体ノ始末ヲ見ル可
キヤ

略式帳合第二式

吳服太物商賣ノ日記帳。大帳。金銀出入帳ヲ記シ末段ニ商賣ノ始末ヲ示ス但シ商賣ハ繁昌ナリ

端書

此第二式ニ於テハ第一式ヨリモ更ニ事ヲ詳ニシテ一
ノ始末ヲ記シ帳合ノ趣意ヲ十分ニ示シテ何時ニテモ我
商賣ノ有様ヲ明ニ知ル可キナリ
金銀出入帳ハ其功用ノ大ナルモノナリ即チコレヲ用レ
バ金ノ請取ト渡方トヲ記シ手元ニアル有金ノ高ヲ知ル
可シ^三商賣ニ用ル諸帳面ノ内ニテ此帳面モ亦甚ダ大切ナ

ルモノトス故ニ物事ニ念ヲ入ル、商人ハ此帳面ヲ用ヒ
ズシテ事ヲ行ハントスル者ナシ^四手元ノ金ハ何時ニテモ
コレヲ計ヘテ其高ヲ知ル可シトハ^五虫氏唯コレヲ計ヘテ
其高ヲ知ルノミニテハ或ハ不相當ノ事ニ金ヲ費シ或ハ
金ノ紛失スル^六一アルモコレヲ糺シテ證據ヲ求ム可キ術
ナシ故ニ今金ノ出入ヲ正シク記シテ其出入ノ差ト現ニ
手元ニアル有金ノ高ト付合フ^七ハ金ノ取扱ニ付キ間違
ナキ證據ト為ルノミナラズ一体ノ商賣モ體ニ行ハレシ
トノ^一ヲ見ル可シ此仕方ヲ除クノ外ハ他ニ間違ヲ糺ス
可キ方便アル^一ナシ

金銀出入帳ヲヨク用レハ何時ニテモ有金ノ高ヲ知ル可
キノ便利アリコ、ニ此帳面ヲ用ルモ即チ其趣意ノタメ
ナリ今コノ第二式ニ用ル出入帳ノ体裁ハ一般ノ商用ニ
適當シテ最モヨキモノニモ非ザル可ケレ氏極テ簡略ニ
シテ解シ易キモノナリハ通例商人ノ家ニテハ毎日商賣ノ
終ニ金銀出入帳ヲシメ切り其殘金ヲ翌日ノ元金ニ廻ス
スノ風ナレ氏九左ニ示ス所ノ例ニハ便利ノタメ假ニコノ
風ヲ改メ二箇月ノ金銀出入ニ初ノ一月ハ一七日毎ニシ
メ切り後ノ一月八月ノ末ニ一度ヒシメ切り唯其用法ヲ
解キ示スノミ

第二式ハ第一式ヨリモヤ、深キ處ニ步ヲ進メタルモノ
ニテ其進歩ノ模様ハ未段ノ惣勘定ニテ見ル可シ但シコ
ノ惣勘定ハ金銀出入帳ノ下ニ記シコレヲ一見スレバ帳
合ノ大趣意ヲ知ル可キナリ
高賣ノ帳面ヲ取扱フ下ニ付キ最モ願フ可キ一事ハ取引
ノ始末ヲヨク明ニシテ誤ナカラシムルノ働ナリ故ニ學
者コレヲ稽古スルヤ諸式ノ末段ニ記セル惣勘定ヲ大切
ナルモノト思ヒ格別ニ心ヲ用ヒザル可ラズ殊ニ其惣勘
定ヨリ引出シタル定則ハ最モ緊要ナルモノナリ
〔譯者註〕本文ニ金銀出入帳ヲ一七日ニシメ切ルト記シ

テ例ニ示ス出入帳ニハ六日毎ニ終レリ彼ノ國ニテハ
一七日ノイヲ一井イキト唱ヘ一井イキニ一日ノ休日
アリ即チソソンデイナリ此日ニハ高賣ナキユヘ一七日
ト云フモ其實ハ六日ノ仕事ナリ

第 二 式
明 治 六 年
日 記 帳
四 月 一 日

一丁 伊豆屋	一丁 甲州屋社中	品物代目録ノ通	貸	借
金巾	金巾	五丈	一	二
打ひも	打ひも	五尺	一	二
ふん地木綿	ふん地木綿	二丈	一	二
大中羅紗	大中羅紗	五尺	四	三
			一五〇	〇
			四〇〇	〇
			一九二	〇

三

三十四

二 相摸屋

ちりせんぼろ 七丈六尺

系織 六丈

四

四一之
四一、二五七

一五
二五

借

四〇

二 武蔵屋

裏地縮 七丈

一四五之

一〇 五〇

借

六〇

装束飾類

五

借

六〇

三 安房屋

フラ子ル 六尺

五〇七之

一八 三

借

二一

縮ご縁 七丈六尺

四一、五〇七

一八

二一

三 上總屋

紋縮緬 七丈六尺

四一、五〇七之

一八

借

極上大巾羅紗 六尺

六

四四〇〇

二四

貸

四二

一 伊豆屋

差別金ニテ

一〇

三 下總屋

木綿ふらん地 七丈六尺

七五七之

一八七五

借

女物くつ 六尺

四一〇〇

六

更紗 七丈六尺

一五七

一八〇

二六五五

八

三十五

十日

三十五

早 常州屋

博多帯地

式丈八尺

四二〇〇之

五〇

借

紋ざね

六丈

一五七

七五〇

三下 總屋

差引金三テ

十日

貸

一五

五七五〇

早 近江屋 (内室用)

麻手拭

十丈

二五七之

六

借

紋金巾

七丈

四一五〇

二一

二九五〇

海氣

七丈四尺

同日

一丁 伊豆屋 (息女用)

十日

借

手袋

七丈

一五七之

一

更紗

七丈八尺

一五七之

一八〇

不九人

三組

二五七

七五

糸

八玉

四七

三二

早 美濃屋

十日

借

三八七

地忌紗

七丈

装束飾

二

一五

三五〇

早 常州屋

十日

貸

飛弾屋ヨリ差引勘定ノ差図ニテ

五七五〇

寺 飛彈屋

常州屋渡りノ差圖ニテ

十七日

借

五七五〇

寺 近江屋

太地木綿

貳丈

十九日

借

二二

毛織羽織地

三丈

五〇七之

一〇

男物足袋

壹組十二

三〇

三九

寺 飛彈屋

フランス羅紗

壹丈

二十日

借

四〇

花色袂父

貳丈

山四〇〇之

一三七

六五〇

太織つむぎ

貳丈

一二七

二四〇

寺 信濃屋

正金ニテ

廿五日

借

五〇

綿びろふど

壹丈貳尺

二五七

三七五

綾絹

三丈

三三七

九九〇

革手袋

六對

七五七

四五〇

六七〇五

貸

形付紗

壹丈

七五七之

七五〇

緋ぢほ

六尺

一〇七

六〇

大和錦

壹尺

二

縫糸

十五

四七

四〇

一〇五〇

廿七日

野州屋

黒綿子	六尺	四二〇。之	一	二	借	
麻手拭	一组十二	五〇七	六	一	六	
男ものくつ足袋	六足	二五七	一	五	一	一九五。
三十日						

近江屋

差引金ニテ

同日

貸

二。

相摸屋

差引金濟切

同日

貸

四。

上總屋

同日

借

伊豆屋

五月一日

借

一八五。

黒八丈

五丈五尺

二五七之

三

黒大形ぞん毛

三丈五尺

四一五。セ

五

五五五。

武藏屋

二日

借

黒綿子

五丈

四一六三セ之

一

一六三。

本綿ふん地

五丈五尺

一二セ

三

紺縮緬

五丈

二。セ

四

二三三。

五日

二丁 甲州屋社中

差引金大坂へ為替ニテ

借

二〇〇〇

五丁 飛彈屋

六日

借

小巾縮緬無地 差丈五尺

二〇七之

三

同欣付 差丈

三〇七

三

縮子袋 六對

七五七

四五〇

一〇五〇

三丁 安房屋

七日

大巾羅紗 八尺

四四〇〇之

三二

紋綿子 差丈

二〇〇

二〇

一丁 常州屋

同日

借

五二

五九

一丈縮緬 差丈四尺

四二〇〇之

二八

六丁 岩城屋

九日

借

フラ子ル 差丈

五〇七之

五

麻子拭 六

三八七

二二八

右織ふん地 差丈

一二七

二四〇

九六八

三丁 上總屋

十日

貸

差引金ニテ

三〇

十二日

于 武蔵屋

男、ものくつ足袋 六足

づばんほり 一

革手袋

十五日

于 伊豆屋

大巾羅紗 五丈

綿子 六尺

同日

于 武蔵屋

差引金ニテ

借

二五七

一五

七五

三二五

四四。〇

二。〇

四。〇

一。二

五二

二五

二十日

于 信濃屋

一丈羅紗 四尺

紋錦 一尺

不た人飾

四三。〇

一。二

四。八

借

二四

于 下總屋

差引金海切ニテ

廿一日

貸

一一五

廿五日

于 武蔵屋

差引金海切ニテ

貸

六一五

申

初

廿七日

五丁 信濃屋

薪

二車

四五。〇。久

一。

貸

バタ

又拾斤

一六セ

八

一八

同日

四丁 美濃屋

花色絹

丈三尺

二五セ久

三二五

借

形付縮緬

丈四尺

一五。

二一

装束かざり

廿日

六丁 岩城屋

大巾羅紗

丈二尺

四四。〇。久

四八

借

縹子

六尺

二。〇。

一二

六。

六丁 野州屋

三十日

右藏ふとん地

又丈

一二セ久

六

借

形付フラスル

丈

七五セ

七五

貸

差引金添切ニテ

三三

一三五。

六

六

六

六

六

六

六

六

六

同	五月	四月	借	四月	借	同	五月
二十	日二	日四		日三		五十	日一
同	同	品物		品物		同	品物
						内	
						一	一
						二	三
						〇	〇
						五	五
						七	七
						二十	九
丁	丁	丁		丁		五	五
五	九	二		四		二	五
八	三	六		〇			〇
六	二	〇					
五	三						
五	〇						
	同	五月		四月			
	五	廿		十三			
	同	正金		正金			
丁	丁			丁			
五	五			八			
八	六	二		四			
五	一	五		〇			
五	五						

武藏屋

相摸屋

貸

貸

四月	借	同	四月	借	五月	四月	借
日八		十三	日五		日七	日五	
品物		同	品物		同	品物	
		内					
		三		八		〇	
		〇		〇		〇	
		五		〇		〇	
		〇		〇		〇	
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁
三	三	九	三	十	二	三	二
二	二	一	四	五	二	二	一
六	六	八	二	九	一		
五	五	五	〇				
			五月				
			日十				
			正金				
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁
五	五	三	三	三	三	三	三
二	一	一	〇	二	五	二	一
六	一	五		五		五	
五	五						

下總屋

上總屋

安房屋

貸

貸

貸

借

野州屋

貸

四月 七廿	品物	丁八	一九五。
五月 十三	同	丁五	一三五。
			五月 十三
			正金
		丁五	三三
			三三

借

岩城屋

貸

五月 九日	品物	丁九	九六八
同 八廿	同	丁五	六。
			六九六八

第 二 式

金 銀 出 入 帳

借

貸

四月 一日	有金	一五。
日一	出 筆墨郵便切手代	
日二	入 店小賣代	一一五
	出 高四千田ノ請合分	二五
	出 車力賃	
	入 店小賣代	一七五
日三	出 雜用	
		一五
		二。
		八

四月			
日三	日四	日五	日六
出 卜男へ返ス給金戸引			
入 店小賣代			
出 店修覆雜費			
出 筆一箱代			
入 店小賣代			
出 帳廻系紙摺手留			
出 ランプ代			
入 店小賣代			
入 俣豆屋へ戸引金請取			
出 帳廻方給金返			
八七二	一〇五	一八三	一〇
三	五	二五	
五	二	七	一
〇	五	五	五
八	八	〇	〇

四月			
日九	日八	日七	日六
入 店小賣代			
出 手元預金			
送高			
出 少々束拾貳五代			
出 馬車賃			
入 店小賣代			
出 車力四回人足三回			
二〇〇	二二八	二一九	二一五
〇	一	八	五
三	一	九	七
八	二	九	四
五	二	九	一
	三	九	〇
	三	九	〇

日九 日十 一十 二十

出 小間物入箱代
 入 店小賣代
 出 金箱代
 出 帳場掛入酒
 出 小雜用
 入 店小賣代
 出 三月三十一日返家賃掛
 出 家用諸道具代
 入 店小賣代
 入 下総屋より金請取

七六				
一一。				
七六七五				
二。	二。	二。	一。	二。
二。	二。	二。	一。	二。
二。	二。	二。	一。	二。

三十

入 店小賣代

手元殘金

五十

送高
 出 陸運賃錢掛
 出 郵便切手代
 出 店修履子舟大工掛

八四	九八七五	二、八七五三五	二、三五五六八七
九八七五	二、八七五三五	二、三五五六八七	二、三五五六八七
二、三五五六八七	二、三五五六八七	二、三五五六八七	二、三五五六八七
一。	一。	一。	一。
一。	一。	一。	一。
一。	一。	一。	一。

帳合之法 卷之一

四月 九廿		七世	
入	出	入	出
店小賣代	人足賃	店小賣代	
		手元殘金	
	送高		
出 荷物陸運賃錢拵福金ヨリ			
出 荷物松賃			
三、八九八七五	一七三八一	三、九九二七五	三、八九八七五
七四一。		三、九九二七五	六
		二、四七五	
		一、五〇	

五月		十三	
日二	日一	入	入
		店小賣代	込江屋の長門金請取
			相摸屋の同町海切
		手元殘金	
	送高		
出 醬油十掬代			
出 筆紙墨代			
四、一三一六〇	四、一五七八五	一、二五	二、〇
	四、一五七八五		
		四、一三一六〇	
一、五〇			
一、五〇			

六月一日

送高

二九。八二六

五十一

惣勘定

左ノ惣勘定ニ記ス所ハ前ノ大帳ト金銀出入帳トヨリ集
 タルモノニテ帳合ノ真ノ功用ハコノ惣勘定ニ由テ始テ
 明ニ見ル可キナリ都テ惣勘定ハ商賣ノ有様ヲ示スモノ
 ナレバ其所持ノ高ト借用ノ高トヲ明ニ記サバ爾可ラス
 學者ノ常ニ眼ヲ著ク可キ一事ナリ但シ所持トハ商賣ノ
 言葉ニテ云フ所ノ身代又ハ元手ノトナリ借用トハ即チ
 拂口又引負ノトナリ帳合ノ法ハ何レニテモ其体裁ヲ論
 ズルトナク唯コノ一事ヲ明白ニシテ解シ易カラシムル
 モノヲ最上ノ法ト為スノミ

帳合之法

卷之一

五十一

コノ高賣ノ例ニ示ス所ノ元手ト拂口トハ其種類甚タ少
 キガ故ニコレヲ合点スルイ容易ナル可シ唯金銀出入帳
 ト本帳トヲ用ヒコレニ仕入有品ノ目錄ヲ合セテ惣勘定
 ヲ為シタルモノナリ

元手

第一 大帳ノ勘定ヨリ即チ他人ヨリ請取ル可キ差別

金ナリ

伊豆屋

安房屋

上総屋

一二〇	五七
八〇	
三〇	五〇

常州屋

近江屋

美濃屋

飛騨屋

信濃屋

岩城屋

第二 金銀出入帳ヨリ即チ手元ニアル残金

第三 仕入帳ヨリ即チ手元有品代

二八	三一五〇	三七七五	八五〇五	一六五〇	六九六八	二九〇八	二六	四、四八三二六
一〇	七五	四五	四九	四	四	八	二六	

拂口

大帳ノ勘定ヨリ

甲州屋へ拂フミキ差引金

現在ノ身代

此勘定ヲ見レバ現在我身代ハ二千四百八十三圓二十六
 錢ナリ此内ヨリ最初ノ元金千五百圓ヲ引ケバ殘九百八
 十三圓二十六錢即チ二箇月ノ商賣ニ得タル利潤ナリ

内

二、四八三、二六
一、五〇〇
九八三、二六

右ニ記シタル次第ヲ引マトメテ左ノ定則ヲ得ルナリ

定則

第一 現在ノ身代ヲ知ルニハ元手ノ高ヨリ拂口ノ高ヲ

引ク可シ

第二 商賣ノ利潤ヲ知ルニハ商賣ノ終ニ殘リタル元手
ノ高ヨリ初ニ用ヒタル元金ノ高ヲ引ク可シ

活用ノ例

左ノ例ハ稽古人ヲシテ第二式ノ帳合ヲ益明ニ會得セシ
メ其定則ヲ活用セシメンガタメニ示シタルモノナリコ

レテ教ルニハ唯事ノ始末ヲ正シク知ラシムルノミナラズ前ニ示レタル法ニ從テ惣勘定ノ書付ヲモ作ラシム可シ

第一例

コ、ニ一商人アリ五千圓ノ元金ヲ以テ商賣ヲ始メ一年ノ後ニ至テ諸帳面ヲ取調ベシニ其勘定左ノ如シ
○正金ヲ受取タル高一萬五千圓同拂出シタル高一萬五百圓
○一助ノ勘定借千五百圓、貸千圓
○二助ノ借四千圓、貸三千五百圓
○三助ノ借九百七十五圓、貸四百五十圓
○四郎ノ借四百八十三圓七十五錢、貸三百圓
○仕入有品ノ價二千七百五十圓
○五郎ニ借リタル高千五百圓
○右

ノ通りニテ一年ノ終ニ元手ノ高ハ何程ナルヤ一年ノ間ニ得タル利潤ハ何程ナルヤ

第二例 若狹屋ト越前屋ト會社ヲ結ヒ左ノ元手ニテ商賣ヲ始メタリ即チ正金三千圓、手形千五百圓、有品代金ニ積リ三千五百圓、地面家作等同一萬圓他人ハ差引貸金一萬二千五百圓アリ○六箇月ノ後ニ至テコノ會社ノ元手ト拂口トノ高左ノ如シ即チ元手ニアル正金千五百圓、手形千五百圓、有品三千七百五十圓、地面家作等一萬五千圓他人ハ差引貸金五千圓○手形引替ノタメ社中ヨリ拂フ可キ金高七百五十圓他人ハ差

引借金千五百圓アリ○右ノ通りエテ高賣ノ始ニ用ヒタル元手ハ何程其終ニ殘タル元手ハ何程正味ノ利潤ハ何程ナルヤ

稽古人ノ試業第二番

左ノ取引ヲ記スニハ最モヨク心ヲ用ヒザル可ラズ第二式ノ帳面ヲ盡ク用ヒ其法ニ從テ帳合ス可キナリ

覺

七月一日元金千五百圓ヲ以テ高賣ヲ始メタリ○加賀屋ヨリ麥粉一俵八圓替ニテ五十俵タラシ砂糖一升四十錢替ニテ一石四斗石鹼一箱四圓替ニテ十二箱上茶一箱二

十圓替ニテ六箱買入レ代金差引○筆紙墨買入代並ニ雜費五十圓拂○店小賣代金十五圓入

同二日飯登屋へ麥粉一俵九圓二十五錢替ニテ十俵石鹼

一箱四圓二十五錢替ニテ四箱賣渡シ代金差引○車力賃

二圓拂○店小賣代五十圓入

同三日越中屋へ麥粉一俵九圓五十錢替ニテ十五俵上茶

一箱二圓五十錢替ニテ三箱賣渡シ代金差引○加賀屋へ

差引金二百圓拂○店小賣代七十五圓入

同四日越後屋ヨリタラシ砂糖一升五十錢替ニテ十樽十

二石煙草一斤六錢替ニテ十二箱三千七百五十斤買取り

代金差引○佐土屋へタラシ砂糖一升七十五錢替ニテ一斗麥粉九圓替ニテ一俵賣渡シ代金差引○店小賣代百十圓入

同五日越後屋へ麥粉一俵九圓替ニテ五俵賣渡シ代金差引○越中屋ヨリ差引金五十圓入○店小賣代百五十圓七十五錢入

同六日筆紙墨代五圓五十錢拂○店小賣代百十圓七十五錢入
同八日丹波屋ヨリ白砂糖一斤六錢五厘替ニテ千斤タラシ砂糖一升五十錢替ニテ六樽四十石買取り代金差引○

店小賣代七十五圓五十錢入

同九日書役雇賃五十圓拂○店小賣代五十圓入

同十日店小賣代八十三圓三十錢入

同十一日越中屋へタラシ砂糖一升六十錢替ニテ一斗白

砂糖一斤七錢替ニテ五十斤麥粉九圓替ニテ一俵賣渡シ

代金差引○店小賣代六十八圓五十錢入

同十二日丹波屋へ差引金五百圓拂○店小賣代七十五圓

八
同十三日店小賣代百十七圓五十錢入

同十五日丹後屋ヨリ新大豆一俵四圓二十錢替ニテ三俵

中令之流 卷之一
五二六
バタ一斤六錢替ニテ十二箱三百六十斤、パン一釜十錢替
ニテ四十釜買取り代金差引○人足貨三圓拂○店修覆雜
費五圓拂○店小賣代百二十三圓七十五錢入
同十六日店修覆ニ付大工八五郎へ二十五圓拂○但馬屋
へ五圓替ニテ新大豆一俵、バタ一斤七錢替ニテ三箱九十
斤賣渡シ代金差引○店小賣代九十七圓五十錢入
同十七日店小賣代百二十五圓七十五錢入
同十八日因州屋へ白砂糖一斤七錢替ニテ百斤、タラシ砂
糖一升六十錢替ニテ五斗、又白砂糖一斤七錢替ニテ六十
斤賣渡シ代金差引○出雲屋へ引札スリモノ代五圓五十

錢拂○店小賣代八十八圓九十三錢入
同十九日郵便切手代三圓拂○書状用紙代五圓代○店小
賣代九十八圓三十七錢入
同二十日店小賣代百十七圓九十五錢入
同二十二日越中屋ヨリ差引金五十圓入○但馬屋へ、タラ
シ砂糖一升六錢替ニテ三斗、上茶一箱二圓五十錢替ニテ
二箱賣渡シ代金差引○店小賣代八十四圓二十八錢入
同二十三日但馬屋ヨリ差引金三十圓入○店小賣代七十
五圓入
同二十四日石見屋へ、タラシ砂糖一升五十六錢替ニテ一

樽七斗五升賣渡シ代金差引○店小賣代六十五圓七十五錢入
 錢入
 同二十五日但馬屋ヨリ差引濟切ニテ四十九圓三十錢入
 ○店小賣代七十八圓二十五錢入
 同二十六日店小賣代四十八圓九十五錢入
 同二十七日書役給料五十圓拂○佐土屋ヨリ差引金十六圓五十錢入○越後屋へ差引濟切ニテ七百八十圓拂○店小賣代八十一圓三十八錢入○有品目錄ノ通りニテ代金千五百圓ノ見積リ

本文ノ問題

- 一 第二式ニ於テ更ニ詳ナル始末ハ何事ナルヤ
- 二 金銀出入帳ノ貴キ功用ハ何事ナルヤ
- 三 高賣諸帳ノ内何レノ帳面ヲ大切トスルヤ
- 四 金銀出入帳ヲ用ヒザレバ如何シテ有金ノ高ヲ知ル可キヤ
- 五 金ノ數ヲ計フルノミニテハ何等ノ證據ヲ得ザルヤ
- 六 金ノ出入ヲ正シク記セバ何等ノ利益アルヤ
- 七 金銀出入帳ヲヨク用レバ何時ニテモ何等ノ

事ヲ知ル可キヤ

八

高賣ニ於テハ幾度出入帳ヲシメ切ルヤ

九

此第二式ニ示ス出入帳ニハ幾度シメ切リテ

為シタルヤ

十

高賣ノ帳面ヲ取扱フニ付キ願フ可キ一事

ハ如何

惣勘定ノ問題

十一

惣勘定ニ記ス所ノ事柄ハ何レヨリ集メタル

モノナルヤ

十二

高賣ノ有様ヲ示ス惣勘定ハ何事ヲ明ニスル

ト緊要ナルヤ

十三

帳合ノ法ノ最上ナル徴ハ何ニ由テ知ル可キ

ヤ

十四

大帳ヨリ集ル元手トハ何様ノ金ナルヤ

十五

金銀出入帳ヨリ集ル元手トハ何様ノ金ナル

ヤ

十六

仕入帳ヨリ集ル元手トハ何様ノ金ナルヤ

十七

拂口ノ高ヲ知ル法ハ如何

十八

現在ノ身代ヲ知ルタメノ定則ハ如何

十九 高賣ノ利潤ヲ知ルタメノ定則ハ如何

帳合之法卷之一終

